



4th regional conference
7th-8th December 2015, Kuala Lumpur, Malaysia

第4回 UNI Apro 地域大会
2015年12月7~8日
マレーシア・クアラルンプール
新たな頂点を極める UNI Apro
急成長を遂げるアジアにおける
インクルーディング・ユー

日本語速報第3号 2015年12月11日発行
UNI Apro 東京事務所 / UNI 日本加盟組織連絡協議会

地域大会2日目は、UNI アスリート部会のセッションから始まった。ブレンダン新担当局長は、選手の権利を守り、IOC（国際オリンピック委員会）やWADA（世界反ドーピング機構）といった国際組織に対し選手を代表するには、労働組合もグローバルな結束が不可欠だと強調した。UNI 世界アスリート部会は2014年12月ケープタウンで結成され、約85,000人のスポーツ選手を組織している。オーストラリアの女子サッカー選手の労働条件改善を求める闘いの成果等が報告された後、

「アスリートのためにUNIはグローバルに新たな頂点を極める」動議が全会一致で採択された。

「新たな頂点を極める：アジア太平洋地域の経済成長の中でピ

ープルファーストを」のセッションでは、ドワイヤー代議員(オーストラリア)の導入報告に続き、ルーク代議員(シンガポール)がディーセントな雇用とワークライフバランスについて、シャンカール代議員(ネパール)が貧困削減と富の分配に



ついて、キム代議員(韓国)が団体交渉と収入格差について報告した。損保労連・田原代議員は、経済成長において人権、民主的権利、労働組合権を確保すること



が重要であるとして、日本における非正規社員の組織化や損保労連の取組みを紹介した。生保労連・宮本代議員はフロア発言の中で、「従業員ひとりひとりの能力発揮や働き甲斐、生き甲斐の向上なくして産業・企業の発展はない」として、人間第一の精神で顧客・地域・社会に貢献していきたいと決意を述べた。

「新たな頂点を極める：包括的成長に向けた

地域経済統合に労働組合の声を」のセッションで導入報告を行ったフィリピン大学労使関係学科のオフレネオ教授は、2000年WTOドーハラウンド崩壊以降、FTA、TPP、RCEPなど多

1985年に労働組合として結成され、現在740人のプロ野球選手が加入している日本プロ野球選手会の森事務局長は、「組合員である選手をひとりにしなさい」ことを大切に活動していると述べた。2004年、球界再編問題に対して103日間に及ぶ交渉の末、史上初のストライキに踏み切り、球団の減少、選手や球団スタッフの解雇という最悪の事態を食い止めた経験から、「選手が団結すれば状況を変えられる」と強調した。

くの地域協定や二国間交渉が同時進行している状況を「ヌードルボウル」と称して概観した。シャフィー代議員(マレーシア)は、ASETUC(ASEANサービス労組協議会)が労組を含む市民社会の意見を発信する組織としてASEAN経済統合に社会的側面をもたらすべく貢献していると強調した。自動車総連・郡司代議員は、TPP大筋合意において労働条項が含まれたことについては評価できるものの、雇用に



与える影響・変化の検証が重要であり、今後も国会承認への動向を注視しつつ、自動車産業に与える影響を労使で共有し課題へ対応すると報告した。

ASEAN 使用者諮問会議のタン・スリ・ムニール・マジッド議長は、使用者側の立場から経済統合プロセスに関わってきた経緯を説明し、立場の違いはあっても共通のビジョンを持って力を合わせる必要があると労働側の理解と協力を呼びかけた。

「新たな頂点を極める：労働組合の成長に向けたブレッキングスルー」では、情報労連・野田代議員が「労働組合の成長と強化のための労働組合の国際連帯と協力」について基調講演を行い、3つの成功事例として、地域経済統合協議への参画と ASEAN 及び市民社会組織との連携、インドネシアにおける労働安全衛生の取組み、日本の労組による政府審議会等への政策提言活動を挙げた。クリスティ UNI 副書記長は組織化の成功事例を報告し、国によって方法は異なるが、戦略的



に全ての関係者が連携して進めることが大切だと強調した。アルケ商業部会担当局長は、Bangladesh 安全協定及びサプライチェーンにおける取組みについて報告した。UA ゼンセン・八野代

議員は、「グローバル枠組み協定と企業の社会的責任」のテーマで高島屋及びイオンの枠組み協定とその意義について紹介した。インドネシアのジャクワン代議員は、ヘーロースーパーマーケット



におけるパートナーシップ労使関係構築の成果を報告し、UA ゼンセン及びその他 UNI 加盟組合からの支援に感謝した。イオングループ労連・村上中央執行国際局長は、イオンが2014年に締結したグローバル枠組み協

定の活用状況や UNI Apro と連携して進めているアジアの労働者への労働組合教育の様子等を紹介した。

動議及び声明の採択：ウマリ決議委員会議長より動議案への修正案、韓国とニュージーランドから出された声明案の説明を受けた後、大会は満場一致でこれらを承認した。

選挙：UNI Apro 運営・執行委員会及び内部監査の構成について確認した。UNI Apro 運営委員会は以下の通り選出された。

UNI Apro 地域会長：野田情報労連委員長
UNI Apro 地域会長代行：ドワイヤーSDA 書記長
UNI Apro 選出 UNI 副会長：八野 UA ゼンセン副会長
UNI Apro 地域副会長：小俣 JP 労組委員長、郡司自動車総連事務局長、シャフィーUNIVEN 委員長
UNI Apro 地域書記長：クリストファー・ウン
規約により、UNI Apro 女性委員会議長（インドネシア・ミラ ASPEK 会長）、同副議長（山中情報労連中執）も運営委員会メンバーとなる

野田新 UNI Apro 地域会長はまず、退任した逢見前会長の多大な功績に感謝し、今後の活躍を祈念した。「21世紀はアジアの世紀であり、労働組合が社会的存在として役割を發揮することがますます求められる。UNI 結成当時の『ピープルファースト』の精神を引き継ぎ、大会決議に基づいて新たな頂点を目指し、一丸となって活動を推進していこう。UNI ポレ！」と呼びかけた。



「1人の100歩より100人の1歩が大切」